

安全に関する改善提案

記入日: 2005 年 10 月 31 日

(所属会社)

(氏名)

(連絡先電話番号)

記入者:

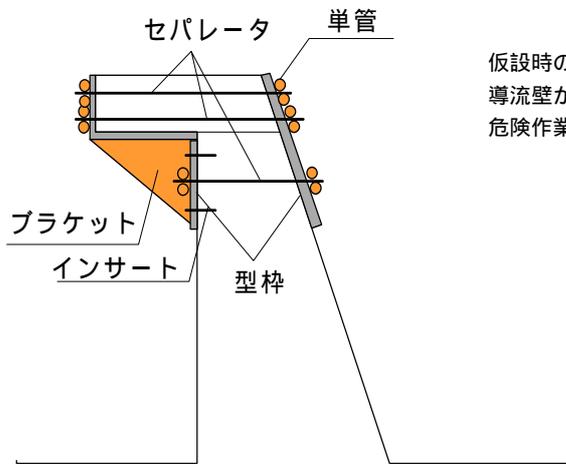
設計・施工区分	工 種	想定される事故の種類	想定される事故の要因	危険作業の種類
設計	コンクリート堤体工	墜落事故	設備要因	高所作業

改善の概要: 堤趾導流壁デフレクターのプレキャスト化
 堤趾導流壁デフレクターは高所作業で、スラブ・天端枠を設置し、コンクリートバケットで打設を実施している。
 危険を伴う作業のため、デフレクター部をPC化し、高所の型枠作業や打設作業を省き、墜落災害防止に寄与する。

メリット:
 高所での危険作業を低減できる。
 張出部の複雑な傾斜のついた型枠、支保工、足場が不要となり、施工の合理化、精度向上に寄与する。

デメリット:
 接合部は、ゴムシールならびにコーキング処理により耐久性に配慮必要。
 本体構造物にあらかじめ埋設した連結部材によって接合に配慮必要。

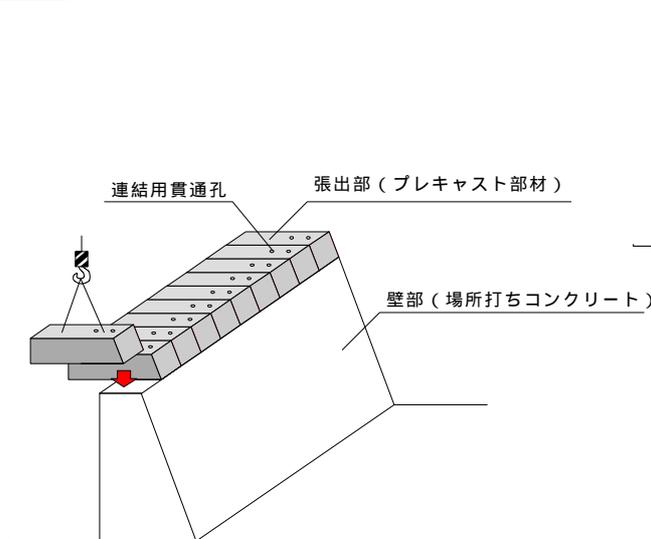
改善前 (略図または写真)



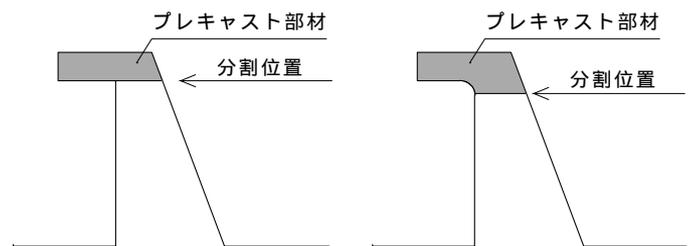
仮設時の張出荷重をブラケットによる支保工で受ける従来の施工方法である。
 導流壁が大規模なものでは、高さ10m程度であり、張出部の施工が高所での危険作業となる。張出部完成後の型枠支保工解体も煩雑かつ危険作業である。

従来の導流壁張出部施工実施例

改善後 (略図または写真)



導流壁張出部斜視図



導流壁分割位置